

教育現場における  
イスラム圏児童・生徒の受入に関する  
事例集



## はじめに

近年、社会の多様化が進んでおり、宮城県の小中学校で学ぶイスラム圏出身の児童・生徒が増えてきています。この事例集は、イスラム圏出身の児童・生徒に対し、受け入れる学校ではどのような配慮を必要としたのか、どのように対応をしたのかなど、様々な事例を紹介しています。

イスラム圏出身の児童・生徒と言っても、出身国、地域、宗派、個人の考え方によって異なる場合があります。ですから、児童・生徒本人や保護者の考えを確認し、文化や宗教を尊重しながら、学校としてどのような対応ができるか話し合うことが大切です。

この事例集がイスラム圏の児童・生徒に向き合う学校の先生方に少しでもお役に立つことを願っています。

なお、本事例集で取り上げた事例の多くは、パキスタン、アフガニスタン、インドネシア出身児童・生徒への対応事例です。今後、出身国や背景がより多様になっていくことも想定されますが、そうした場合においても参考になると考えられます。

2022年2月  
公益財団法人宮城県国際化協会

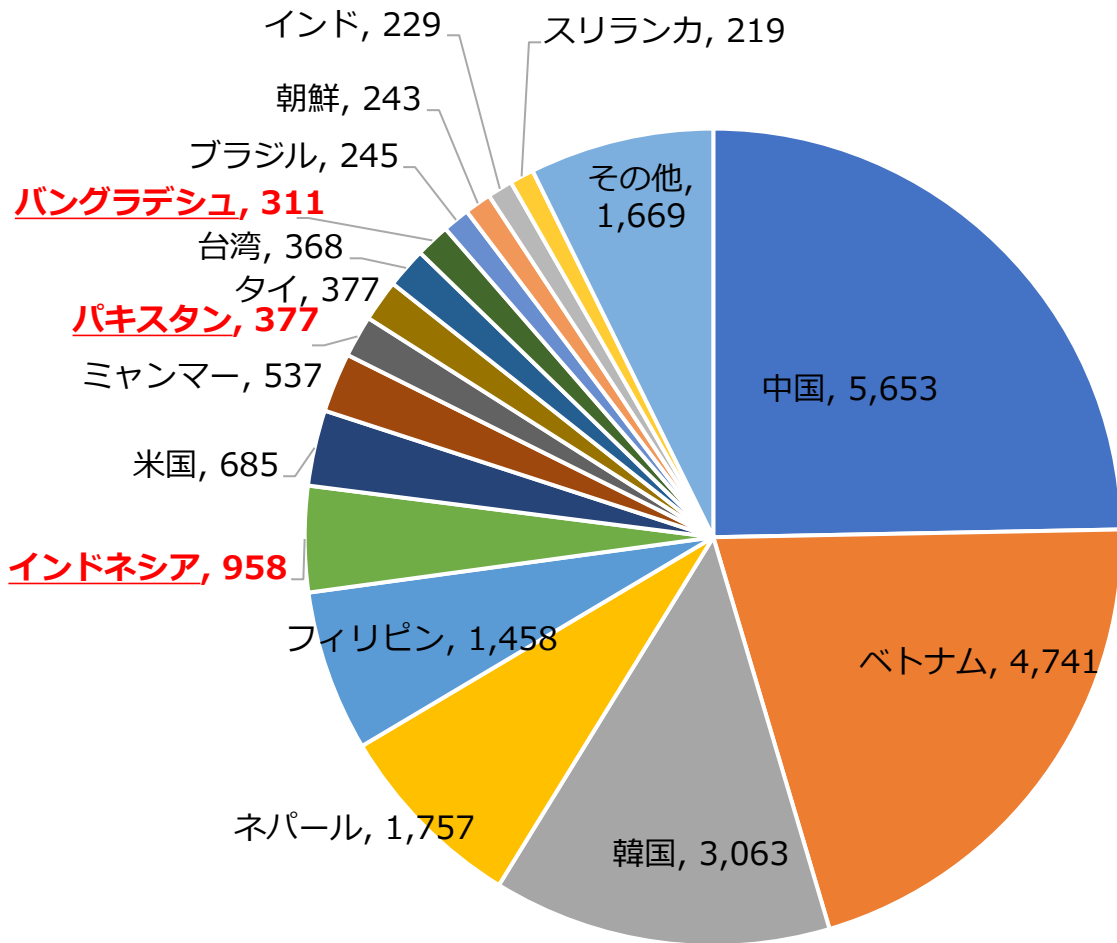
# 目次

◎はじめに	
◎宮城県の国籍・地域別在留外国人数	1
◎イスラム圏の児童・生徒の主な出身国	1
◎お祈りについて	2
——コラム<イスラム教の教義とは>	
◎食事について	3
◎断食月（ラマダーン）	4
——コラム<イスラム教の祝祭日>	
◎制服、ヒジャブについて	5
◎体育着、水着について	6
◎学校行事	7～8
——コラム<踊りや音楽はイスラム教で禁止されているのか？>	
◎宗教的な要素のある活動	9
◎修学旅行・宿泊研修	9
◎身体測定・体調管理・保健指導	10
◎授業、学習サポート、その他	10～12
——コラム<イスラム教と科学>	
——コラム<クルアーン（コーラン）の学習>	
——コラム<イスラム圏における女性や女子児童の社会的な役割とは？>	
◎お役立ち情報	13
◎あとがき	13

※コラムは関東学院大学准教授山下里香様に執筆いただきました。

## ◎宮城県の国籍・地域別在留外国人数

宮城県在留外国人総数 22,890人



2020年12月末現在 法務省在留外国人統計より

※国名赤字下線付きはイスラム教徒が国民の多数を占める国。

※アフガニスタンはその他に含まれており、30人。

## ◎イスラム圏の児童・生徒、主な出身国

宮城県内の小中学校に在籍しているイスラム圏の児童・生徒の出身国は、パキスタン、アフガニスタン、インドネシア、バングラデシュなどです。このうち、パキスタン、アフガニスタン出身者は保護者が中古車販売業に従事していて、家族で県内に在住していることが多いです。

## ◎お祈りについて

イスラム教徒は1日に5回礼拝をします。学校にいる間にも礼拝を希望することがありますので、時間を確認したり、場所が提供できるかどうか保護者を交えて話し合うとよいでしょう。

### お祈りに関する事例

①お祈りをするときは人の往来があまりないような静かなところがいいということでしたので、空いている教室をお祈りのときに使ってもらうことにしました。(中学校)

③空き教室や会議室をお祈りのスペースとして提供しました。(小学校)

⑤夕方のお祈りはできれば家族で行いたいということで部活動には参加しないことにしました。ただし、放課後に行う受験対策の補習や面接の練習などについては保護者に説明をして参加してもらうようにし、そのときは夕方のお祈りも空き教室で行っています。(中学校)

⑦お祈りはできれば静かなところで行いたいのので、周りで友だちがふざけて邪魔したりしないようにしてほしいと保護者は考えているようです。(小学校、中学校)

②保護者から学校にいる間は特にお祈りはしなくていいということでしたので、学校でお祈りはしませんでした。(小学校、中学校)

④お祈りの前に外の水道を使って足を洗っています。冬場は寒いのでお湯を提供してほしいとの要望がありましたが、それはできないと回答したあとはそれ以上は言わなくなりました。(中学校)

⑥お祈りの際に利用している空き教室は暖房設備がないので寒いと言われましたが、さすがにそのためにストーブを用意するわけにもいかないので我慢してもらっています。(中学校)

⑧早朝にお祈りをしているためか、学校に来てから眠そうにしているときがあります。(小学校)

## コラム

### <イスラム教の教義とは>

イスラム教は、キリスト教やユダヤ教と同じく、文字に書かれた啓典を基にしています。主なものに、神からのことばとされるクルアーン(コーラン)と、ハディース(預言者ムハンマドの言動を中心に記録したもの)があります。キリスト教と同じように、これらの書かれたものを各信徒、学識者、社会集団で解釈し、生活や社会活動の指針にします。異なる時代的歴史的背景に書かれたものを解釈しますから、原則は共有していても、それぞれの国や宗派や個人で、解釈の違いが起こりえます。

## ◎食事について

イスラム教では、禁忌とされる食べ物があります。一般には豚肉、酒類（アルコール）やその加工食品（ゼラチン、ショートニング、みりんなど）のほか、イスラム法に則った処理をしていない食肉などが禁忌とされています。



### 給食に関する事例

①給食は牛乳だけ利用して、あとはお弁当を持参しています。（小学校、中学校）

③牛乳もNGという児童がいましたが、それが宗教に関係するのかどうかまではよく分かりませんでした。（小学校）

②給食センターから提供される米飯は他の調理には利用されることのない専用の釜で炊いたものだという説明を保護者にしたところ、米飯は食べてもよいということになりました。（中学校）

### 修学旅行・宿泊研修の際の食事に関する事例

①修学旅行について、担当する旅行会社に問い合わせたところ、全食イスラム食対応が可能ということが分かり、それを利用し、特に問題なく食べていました。（小学校、中学校）

③自主研修の際、外食だと難しいということだったので、そのときだけ教員がついてコンビニエンスストア等で食べ物を調達しました。（中学校）

⑤少年自然の家では、提供された食事の中から食べられるメニューとそうでないものを生徒自身がその場で選別しました。それだけでは足りないので、パンなどを別に持ち込んでいました。（中学校）

②保護者と相談のうえ、ホテルが禁忌ではない食材を用意し、また児童が自宅から持参した鍋でホテルの調理担当者に調理してもらいました。（小学校）

④宿泊研修では事前に献立表を取り寄せて、食べられるものを確認しました。（中学校）

⑥宿泊研修でカレーを作ってみんなで食べる際に、作るのは一緒にやりましたが、そのカレーは食べずに先生が別に用意したチキンカレーを食べていました。（小学校）

## ◎断食月（ラマダーン）

1年に1回、1ヶ月程度の断食期間があります（具体的な時期などはコラム参照）。日の出から日没まで、水を含め一切の飲食をしないとされています。年少者や病気の人は例外ですが、保護者に何歳から始めるのか確認するとよいでしょう。また、断食の期間中、体育の授業など健康上の配慮が必要な場合についても保護者と話し合っておくことが大切です。

### 断食中の給食時間に関する事例

①別室に移動し、教員と会話したり、お祈りをしたりして過ごしていました。（小学校、中学校）

②断食期間中は午前中のみ授業を受け、早退しています。（中学校）

### 断食中の体育に関する事例

①児童本人が体育の授業にとっても積極的だったので、断食期間中も参加していました。断食を始めた最初の年（小5）は、保護者も水分補給には同意していたようです。（小学校）

②断食期間中は体調に配慮して体育は見学するようにしています。（中学校）

### 断食中の部活動に関する事例

運動部に所属していましたが、保護者と相談の上、断食期間の間は部活動を休むことにしました。（中学校）

## コラム

### <イスラム教の祝祭日>

イスラム教の2大祝祭日は、断食明けと犠牲祭になります。これらは月の動きに基づいたイスラム暦に基づいており、太陽暦に比べると毎年11日ほど前倒しになっていきます。いつ頃になるかは、インターネット検索でも大まかにわかります。ただし、断食月の厳密な始まりと終わりは、月の観測で決まるので、直前（例えば前日）まで具体的に何日からかわかりません。また、日本に暮らすイスラム教徒でも、どこの月の公式な観測を基準とするか、家庭によって1～2日のずれがあることも稀にあります。

## ◎制服、ヒジャブについて

思春期以降の女子生徒は顔と手以外を隠し、体型が分かりにくい服装が好まれます。スカートの下にジャージを履いたり、または男子生徒用のズボンを履くなどの方法があります。

ヒジャブと呼ばれるスカーフの着用についても、いつから始めたいのかなど保護者の考えを確認するのがよいでしょう。

### 制服に関する事例

①学校では男子生徒はブレザーとズボン、女子生徒はブレザーとスカートとしていますが、女子生徒の保護者からの申し出があり、ズボンを着用しています。（中学校）

②スカートの下に体育着のズボンやスパッツを着用していました。（中学校）

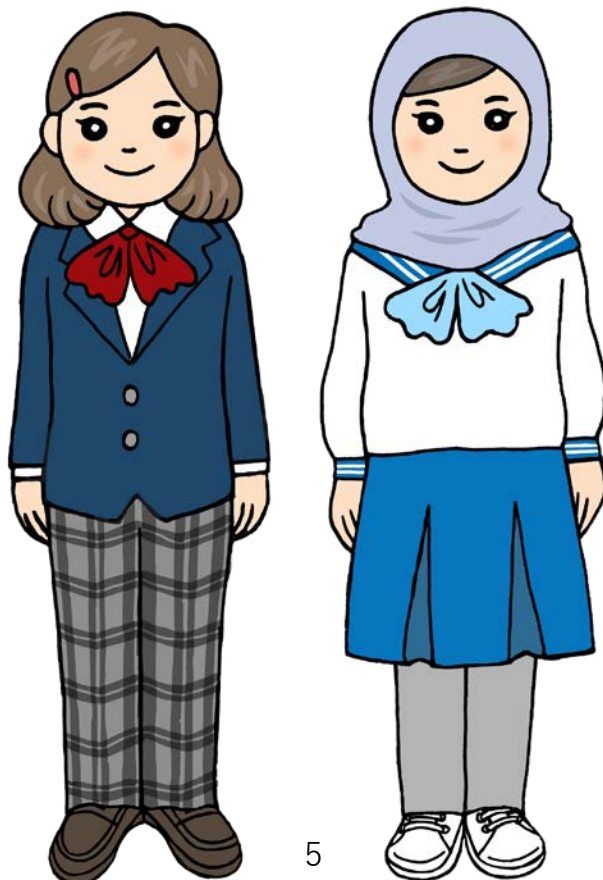
③夏服の期間中、女子生徒は半袖のワイシャツの下に長袖を着ていました。（中学校）

### ヒジャブに関する事例

①中学1年に在籍している女子生徒は現時点でヒジャブを着用しておらず、またいまのところそうした相談も受けていません。（中学校）

②夏の暑いとき、部活等の炎天下であってもヒジャブを着用したままでした。（中学校）

③保護者によっては小学校の低学年からヒジャブを着用させることもあるようです。（小学校）





## ◎ 体育着、水着について

### ・ 体育着

女子生徒については、体育着やジャージも半袖を避け、長袖・長ズボンを選ぶかもしれません。

### ・ 水着

男女が同じプールに入ることに抵抗があり、見学を希望することもあります。

水着も、学校の指定のものではなく、体の露出を減らす水着の着用を希望する児童・生徒もいます。

## 体育着・教室での着替えに関する事例

①教室で体育着などに着替えるということを知らず、インナーを履いていない子どもが困ってしまうケースがありました。（小学校）

②男女とも半袖、半ズボンの体育着を着用し、体育に参加しています。（中学校）

③体育着への着替えを嫌がる児童がいましたが、理由が判然とせず、話し合いを重ねていくうちに体育着に着替えるようになりました。（小学校）

④保護者から可能であれば着替えは別室でさせてほしいという要望があったので、お祈りをする空き教室で着替えもしてもらうことにしました。（中学校）

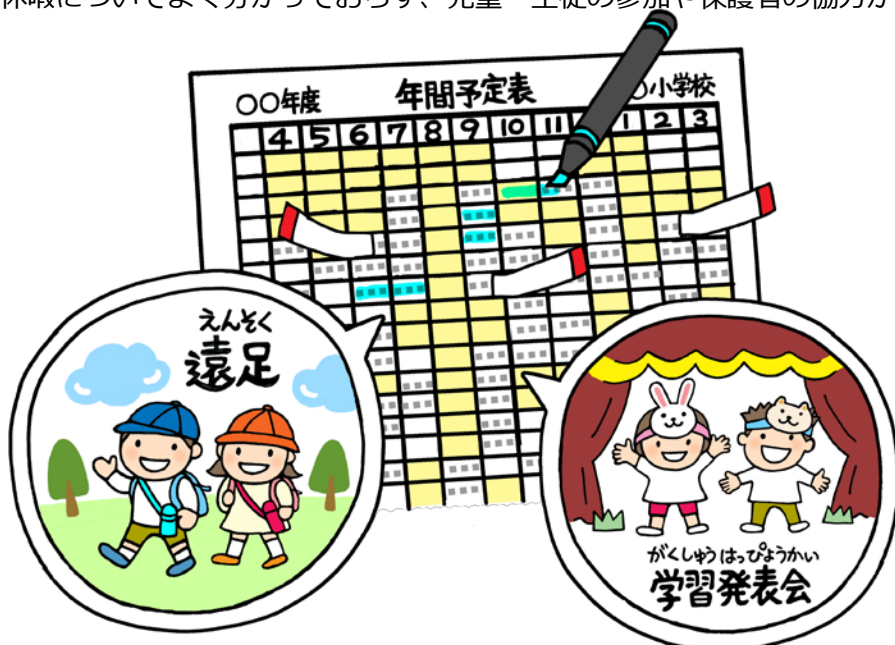
## 水着に関する事例

①男女が同じプールに入ることについて保護者の理解が得られず、水泳の時間はすべて見学している女子児童がいます。（小学校）

②全身を隠せる水着を保護者が用意して、女子児童・生徒はそれを着用しています。（小学校、中学校）

## ◎ 学校行事

保護者が日本語を十分に理解できなかつたり、また日本の学校文化をよく知らなかつたりする場合、学校行事や長期休暇についてよく分かっておらず、児童・生徒の参加や保護者の協力が得られないことがあります。



### 年間予定表に関する事例

年度当初に学校から保護者に年間の予定表を配布しますが、その際に大事な行事や長期休暇の箇所に付箋を貼ったりマーカーしたり、またひらがなでルビを振るなどして学校のスケジュールを理解してもらうように努めました。（小学校）

### 学芸会に関する事例

和太鼓や楽器の演奏自体は問題視されなかったのですが、学芸会といった多くの人 앞에서演奏することに疑問を呈する保護者がいました。校長から保護者に対し学芸会の意味などを説明し、最終的には理解を得ることができました。（小学校）

### 合唱コンクールに関する事例

問題なく参加しています。一般公開も特に問題はありませんでした。（中学校）

※多数の人々の前で女子児童・生徒が歌ったり踊ったりすることに抵抗を感じる保護者がいます。次頁コラム参照。

### 校歌に関する事例

当初、歌を歌ったりダンスをしたりすることに保護者から難色を示されていましたが、卒業式等で校歌を斉唱することについて保護者に説明をし、理解を得ることができました。（中学校）

※「歌や踊りはプロがすることで、一般の人が楽しみのためにするものではない」とあるパキスタン人の保護者が語っていました。次頁コラム参照。

## ◎ 学校行事

### 運動会に関する事例

一年生最初の運動会の際に担任が保護者に電話をしたところ、保護者の来校時間と児童の登校時間が異なることなどを理解していなかったことが分かり、丁寧な説明が必要だと感じました。運動会などの行事の前には保護者が見に来てよいことなども説明し、その結果最初は学校行事に参加していなかった保護者が運動会などに来るようになりました。

(小学校)

### 定期考査に関する事例

定期考査の日程やその重要性についても何度も強調し、生徒と保護者に自己都合で欠席したり一時帰国したりすると評価や進路に大きな影響があることを説明しました。(中学校)



## コラム

### <踊りや音楽はイスラム教で禁止されているのか？>

中東、南アジア、東南アジア、中央アジア、アフリカのどのイスラム圏の地域でも、民族舞踊や民族音楽は歴史的にも盛んでした。現代でも、特に王族などに好まれた舞踊や音楽を教養と捉える地域もあります。一方で、クルアーン（コーラン）などの解釈から、踊りや音楽を楽しむ行為は神から意識がそれるのでよくない、踊りや音楽の表現する内容（恋愛、神話など）がよくない、などという考えの人もあります。恋愛の歌はダメでも、イスラムに関係する歌なら良いと考える人々もいるようです。多くの人が共有しているのは、配偶者以外の異性の注目を浴びようとする意図での踊りや音楽は良くないという解釈です。特に、女性が人前で歌ったり踊ったりすることは、その家庭でいつから「女兒」が「女性」と見なされるかにもよるので、意見が分かれます。裏を返せば、家で、または同性のみが集まる場において踊ること、また身体の動きやポーズなどが異性の視線を集めないような踊り（体操や身体の線がほとんど見えない踊り）は、問題がないと考える人もいます。

## ◎ 宗教的な要素のある活動

七夕、盆踊り、クリスマス会、節分などの行事を宗教行為とみなして参加させたくないとする保護者もいます。

### クリスマス会に関する事例

①各学年ひとクラスずつの小さな学校でクラスメートがずっと固定だったこともあり、こどもの間でもイスラムに対する理解ができていました。ある年クリスマス会の話が上がったときもパキスタン人の児童に対しクラスメートの子どもが配慮して「お楽しみ会」という形で行うことにしました。(小学校)

②幼稚園・保育園の時代から経験があつて慣れ親しんでいるからなのか、クリスマス会にも全く抵抗感を示さず、むしろ楽しみにしている感じでした。(小学校)

### 節分に関する事例

児童を通じて保護者に確認しましたが、問題ないということだったので、節分の行事と一緒に参加し、鬼の役まで率先してやるほど積極的でした。(小学生)

## ◎ 修学旅行・宿泊研修

食事内容やお祈りの時間、場所など事前に確認するとよいでしょう。また、入浴に関して、同性であっても裸を見せられないので、別室でシャワーを浴びるなどの対応が必要かもしれません。寺社仏閣や神社などの見学、参観についても事前に考え方を確認することが望ましいでしょう。

### 修学旅行・宿泊研修に関する事例

①修学旅行中のお祈りは同行した校長の宿泊している部屋で行っていました。(小学校)

③修学旅行時、やはり大風呂にみんなで入るのにはできないということだったので、部屋のシャワーを利用しました。(小学校、中学校)

⑤修学旅行の寺社仏閣等の見学に関して、保護者に確認したところ特に問題がないということだったので、他の生徒とともに見学をしました。(中学校)

②宿泊しているホテルのベッド上でお祈りをしていました。同室の生徒も理解しており、お祈り中は少し静かにして邪魔しないようにしていました。(中学校)

④大風呂に他の生徒と一緒に入る生徒もいましたが、ハーフパンツ等を着用していました。(中学校)

⑥神社の見学自体は問題なく行いましたが、お参りはしないということでした。(中学校)

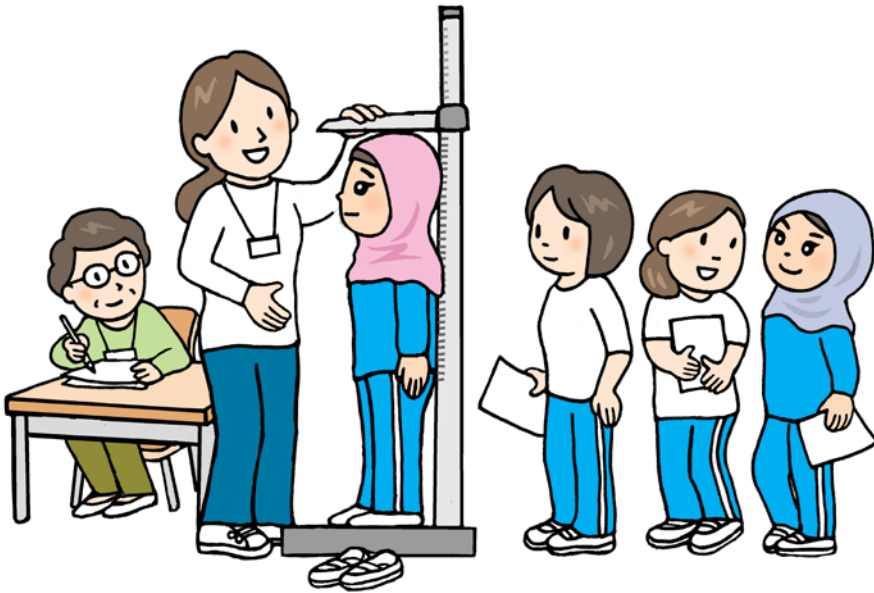
## ◎ 身体測定・体調管理・保健指導

男性の医師が女子児童・生徒に対応する場合、配慮が必要です。また、アルコール消毒が問題ないかも事前に確認するとよいでしょう。

### 身体測定、定期健康診断に関する事例

①医師が同性の場合であっても上半身裸になるのは難しいということだったのでTシャツの上から聴診するようにしています。（中学校）

②アルコール消毒について質問を受けたので、これは飲用のものとは違うと説明し、理解を得ました。（中学校）



## ◎ 授業、学習サポート、その他

### 体育に関する事例

だいたいの授業は問題なく参加していますが、男子・女子生徒とともにダンスだけはできないということで参加していません。（中学校）

※「歌や踊りはプロがすることで、一般の人が楽しみのためにするものではない」とあるパキスタン人の保護者が語っていました。

### 下駄箱・上靴に関する事例

「ムハンマド」「○○ツラー」といった名前を下駄箱や上靴に書くのを嫌う場合があります。神の名を足や泥で汚したくないということでした。その場合、それらが付かない名前（ムハンマド ハムザさんならハムザ）だけを記入するのがよいようでした。（小学校）

## ◎授業、学習サポート、その他

### 理科学習に関する事例

理科の学習時、生物や宇宙について説明をする際、宗教上の教えとは違うと主張する児童がいました。（小学校）

※イスラム教の教義と科学についてはコラム参照。また、イスラム教の教えと科学は分けて理解するようにしているとするパキスタン人の声もありました。

### コラム

#### <イスラム教と科学>

宇宙の始まりや進化論などのトピックにおいて、イスラム教の教義では異なる知識・考え方が伝えられています。あるイスラム教徒の理科教諭は次の趣旨のことを述べました。「科学的知識は科学的知識として受け入れ、それを特に葛藤なく教えている。科学的知識はすべてあくまで人間による仮説と検証に基づいている。人間の分かりえる範囲は限られているので、仮説と検証を繰り返せば、遠い将来、イスラム教の文献で書かれたこととの一致が見られるかもしれない、とも考えている」。イスラム教徒の留学生（学部・大学院）の多くが、出身国で学んだ理科系の研究を日本で続けています。またそうした留学生も、日本でもモスクに通い、宗教実践を続けています。そうした人々にとっては「教義と科学の間の矛盾はない」のだそうです。

### 取り出し指導に関する事例

女子生徒に対して、男性教員が1対1で指導するのは困るということだったので、女性教員が対応するようにしています。（中学校）

### 欠席に関する事例

生徒の母親が通院する際、付き添うために学校を休んだりすることがあります。母親がほとんど日本語ができず、生徒が通訳をすると聞きました。（中学校）

### イスラム教の祝日に関する事例

断食月が明ける日は特別な日で休んでお祝いするようです。事前にその日がいつなのかを保護者と確認しておきました。（中学校）

### 部活動に関する事例

問題なく参加していましたが、学齢超過の関係で途中から大会等には参加できなくなったので、その時点で部活動にも参加しなくなりました。（中学校）



## ◎授業、学習サポート、その他

### 家庭学習に関する事例

①女子児童は家庭内で炊事、洗濯、掃除など家事全般の手伝いが忙しく、家庭学習の時間が無いと言っていました。（小学校）

②平日の夕食後、毎日1時間から1時間半ぐらいイスラム教の経典（コーラン）のアラビア語を勉強していて、なかなか宿題や家庭学習まで手が回らないということがああるようです。（中学校）

### コラム

#### <クルアーン（コーラン）の学習>

礼拝などの具体的な宗教実践に加え、聖典であるクルアーン（コーラン）の「音読」を含めて全文を一通り学び、少なくとも一部を暗誦できるようになることは、一人前のイスラム教徒として見なされるための通過儀礼となります。日本国内でも、モスクや個人、オンラインなどのレッスンを通じて、そのための学習をする児童が多くいます。個人、家庭、教育環境により開始時期はまちまちです。学習形態にもよりますが、1時間程度の学習を週3～5回行っても、完了まで早くて1年半ほどかかります。

#### <イスラム圏における女性や女子児童の社会的な役割とは？>

男性に対し女性よりも多くの責任を負うような記述が、イスラム教にはみられます。しかし、女性が社会的・経済的・政治的な活動に従事したり、学問をしたりすることをよしとしないわけでは全くありません。預言者ムハンマドの一番目の妻ハディースが、商業をして彼を養っていたのは、イスラム教徒の間でも常識です。また、パキスタン、インドネシア、トルコ、バングラデシュなどでは、女性が首相だったこともあります。特に同性間での教育や医療、公共サービスを強く望む地域では、教育を受けなければならぬ女医や女性の教員・公務員は、なくてはならない存在です。

### 保護者との連絡に関する事例

①生徒の父母ともに日本語があまり得意でない場合などは、生徒を通じて伝えたり、生徒の兄（本校卒業生）を通じて伝えてもらうこともあります。（中学校）

②生徒の父が経営する会社の日本人社員（共同経営者）が間に入ってくれることもあります。（小学校）

### 年度途中の帰国に関する事例

年度の途中で一時帰国する児童がいますが、年度ごとに年間の予定を示し、長期休暇の日程をしっかりと知らせたところ、以前よりも学校を休む期間が減りました。単に日本の学校の休暇について分からないだけということもありそうです。（小学校）

### 小学校と中学校の間の引き継ぎに関する事例

来年度中学校に進学する予定の児童について、小学校の担当者と中学校の担当者が情報を共有し、小学校での学習の状況を見学し、配慮すべき点の共有を図るなどして、スムーズな受け入れをするために準備をしています。（中学校）

## お役立ち情報

### ◎宮城に暮らすパキスタン人のための小学校・中学校ガイドブック（宮城県国際化協会）

パキスタン人の児童生徒およびその保護者向けに宮城の小学校、中学校や高校進学についてウルドゥ語で書かれています。

<https://mia-miyagi.jp/kodomosupo.html>

### ◎かすたねっと（文部科学省）

外国につながるの児童・生徒の学習を支援する情報検索サイトです。

<https://casta-net.mext.go.jp>

### ◎日本語を母語としない子どもと親のための進路ガイダンス

高校進学についての説明と個別相談を行っています。また、多言語による進路ガイドブックも作成、公開しています。

<https://shinro-miyagi.jimdofree.com>

### ◎MIA外国籍の子どもサポートセンター

外国籍の児童・生徒に関する各種相談に対応しています。

<https://mia-miyagi.jp/kodomosupo.html>

### ◎外国につながりをもつ子どもの応援ネットワーク「おむすび」

学校の先生、支援団体、大学等、様々な立場の方が集まり、外国ルーツの子どもの学習支援について情報を共有し、つながりを作ることを目的に月に1回程度オンラインで集まる場を設けています。詳しくはMIAホームページ等でご確認ください。

<https://mia-miyagi.jp>

### ◎『となりのアブダラくん』（黒川裕子著、講談社）

日本語を話せないパキスタン人の転校生をめぐる物語。小学校高学年以上向けの児童書です。

## あとがき

本事例集は、イスラム圏出身の児童・生徒を受け入れている小学校や中学校の先生にお聞きした話などをもとに構成しています。ご協力いただきましたみなさまにこの場を借りて感謝申し上げます。

また、コラムもお書きいただいた関東学院大学准教授山下里香様をはじめとしまして、宮城教育大学教授高橋亜紀子様、栗原市立高清水小学校長蛸名博人様、外国人の子ども・サポートの会田所希衣子様、福島県郡山市でパキスタン人の児童生徒の支援をされている藤岡裕子様、東北大学大学院のパキスタン人留学生アーメド ムハマド ハンナン様にはこの事例集に対し数々の貴重なアドバイスを頂きました。改めてお礼申し上げます。最後に、あべこはる様のイラストのおかげで、この事例集が明るく、柔らかなものになりました。厚くお礼申し上げます。



## 発行・問い合わせ

公益財団法人宮城県国際化協会（MIA）

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎7階

TEL 022-275-3796 Email [mail@mia-miyagi.jp](mailto:mail@mia-miyagi.jp)

HP <https://mia-miyagi.jp/>

